

平成30年度大阪府立高津高等学校 第3回学校運営協議会会議録

日時 平成31年3月22日(金) 18時30分～19時30分

場所 校長室

出席者

(委員) 森田 英嗣 (大阪教育大学理事・副学長) (欠席)

新崎 国広 (大阪教育大学教授) (欠席)

竹村 伍郎 (NPO法人「まち・すまいづくり」理事長)

浅田 千鶴 (同窓会副会長)

中川 哲也 (元PTA会長)

東郷 俊也 (PTA会長)

(事務局) 山崎 晃昭 (校長)、藤原 隆志 (教頭)、山崎 義文 (事務長)、伊勢田佳典 (首席)、

山口 優 (首席)、菅 康之 (企画広報部長)、北尾 秀司 (記録係)、

望月 俊紀 (進路指導主事)、前川 紘紀 (進路指導部員)

I. 挨拶

① 校長より

- ・本年度は、創立百周年の年にあたり、11月に創立百周年記念式典および祝賀会が行われ、3月に百周年記念誌(記念DVD付き)も発刊された。ご支援ご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。
- ・今年度から、学校協議会が学校運営協議会となり、この第3回学校運営協議会で次年度の学校運営方針(「学校経営計画」の“1めざす学校像”と“2中期的目標”)について、承認していただく必要がある。

II. 学校からの説明・報告

① 大学合格状況について・・・進路指導主事より説明

- ・センターテストはここ数年、国語が難しかったが、今年度は、全国平均点が6割を超えた。倫政は昨年より大幅に下がったがそれでも全国平均点が6割あるので、これで普通になったと考えるべき。合計点は900点分布で昨年度より上がった。全国平均は理系>文系だが、高津は 文系>理系で、例年この傾向にある。点数が高いと強気の出願傾向がある。本校は今年、8割(難関大学)ラインが30%を超え、6割(国公立大受験)のラインより左の裾(低得点)は短くなった。ただ、本校理系の得点分布においては2つのピークがあり、学力の2極化が見られる。今後も分布が全体的に右(高得点)方向に移動するよう、学力を底上げすることが大切である。
- ・前期入試合格者数：東大2(1)、京大12(6)、阪大29(18)、神戸23(16) ()内は現役数
AOおよび推薦入試合格者数：京大1名、阪大6名 私立指定校入試：1名
私学の一般入試は昨年より減・・・入試定員厳格化が影響か？
前期における現役の国公立合格者数は91で、特に市大10が昨年より減っている。
国公立大学医学科は岡山1、市大1、歯学科1。
国公立中期・後期は、神戸で後期2名合格など出ているが、現在集計中。

② 平成30年度学校教育自己診断結果について・・・校長より説明

- ・今年からスマホ、PCから回答できるように変更した。回答数は生徒はほぼ全員、保護者763、教員40で、保護者の回答数は昨年より微増だが、教員の回答数が減っている(在籍教員数74名、昨年回答は59名)。回答結果は概ね肯定的だが、例年同様、トイレ等施設については低い肯定率となっている。(生徒の自己診断結果の「・・・トイレ等の環境は、学習の場に相応しい」39%)

- ・保護者の「本校ははじめについて真剣な対応を期待できる」54%で低い数値だが、「わからない」が40%を占めているのでこのような結果になっている。

③ 平成30年度学校評価（案）、平成31年度学校経営計画（案）について・・・校長より説明

<平成30年度学校評価（案）>

- ・「GTECスコアレポートにおいて、あまりにも高すぎる目標設定値にしたため、達成することができなかった（12月実施の第2回GTECスコアレポートにおいて、CEFR B2：20人以上、B1：360人以上を目標としたが、実際にはCEFR B2：0人、B1：66人（受験者490人）であった）。
- ・「遅刻者数2,000以下にする」について、本年度は2,041と少し及ばなかったが、例年と比べ遅刻者数は大きく減少した。
- ・「自治会活動に対する肯定率」は、64%と評価指標の目標には届かなかった。生徒自治会の更なる活性化を図っていきたい。

<平成31年度学校経営計画（案）>

- ・GTECスコアレポートの目標設定を適正な数値「CEFR B1を2021年度までに100人以上」に変更する。
- ・KITEC（ネイティブスピーカーの方々を多数招聘し、少人数に分かれて一日英語漬けで会話能力の向上をめざす企画）について、本年度は基本コースのみの3日間であったが、同窓会にご協力いただき31年度は希望者に発展コースを更に1日設けるなど発展継承していく。

Ⅲ. 質疑応答

*大学合格状況について

- ・高校入試の成績で学年ごとの学力が比較できるか。
⇒高校入試の成績では測れない。GLHS10校の学力テストなどで比較すればできるだろう。
- ・私立の合格者数は今後増えるか？
⇒現在8割程度の集約で、なかなか生徒と連絡が取れない分や、今後補欠・繰り上げ合格も期待できる。入試定員厳格化が影響しているためと考えるが、全体的に私学は難しくなっている。
- ・難関大学を京大・阪大・神大としているのはなぜか。それ以外にも目標とすべき大学があるのでは。
⇒大阪府教育庁がGLHS校に対して、京大・阪大・神大と医学部医学科の合格者数を成果指標として挙げている。また、文科省が定めるスーパーグローバル大学および科学技術振興機構(JST)が定めるグローバルサイエンスキャンパスの進学者数も指標としている。それらも目標としていけばよいと考える。
- ・合格者を多く出すと予算の優遇などがあるのか。
⇒そういうわけではない。GLHS指定校は3年ごとに見直すので、入試実績等によってはそのときに入れ替えもあり得る。

*KITECについて

- ・KITECの内容は。
⇒ネイティブスピーカーの方々を多数招聘し、単なる英会話でなく、SSH対応でプレゼンテーション・ディスカッションができるように、1日6時間授業のような形態で3日間行っている。
- ・英語運用能力の向上については、英語に堪能な卒業生なども活用すればよいと思うが。
⇒いろいろなところで、ご協力いただければ有難い。

*働き方改革について

- ・残業は減っているか。働き方改革を進めることで、教職員にとってもよい職場環境となり、教育の効果も上がると考える。
⇒ノー残業デー「金曜日は19時までに退勤」は、定着している。また、時間外勤務も、少しずつ減少している。

*その他

- ・トイレについての改修は？
⇒4F男子トイレは和式から様式に改装した。女子トイレ1系統の改装については、昨年の地震によるブロック塀対策が優先されたため、先送りとなっている。
- ・ブロック塀の改修は？
⇒来年度中に実施することが決定している。

IV 質疑応答・討議の後、平成31年度の学校運営方針（「学校経営計画」の“1めざす学校像”と“2中期的目標”）について、承認される。